

喜多方市立小中学校適正規模適正配置
教職員アンケート調査

喜多方市教育委員会

I 教職員アンケート

1 目的

小中学校適正規模適正配置に係る基本方針及び実施計画策定の参考とするために、教育現場において指導に直接携わる立場から、より良い教育のために目指すべき方向性や小中学校で抱えている課題等について、市内小中学校教職員の考え、意見等を把握することを目的として実施しました。

2 実施方法

教職員アンケートの実施にあたっては、市内小中学校全教職員に、「喜多方市立小中学校適正規模適正配置意見調査票」を配布し、無記名による回答を依頼しました。

3 回収期間

平成30年11月22日（木）～11月30日（金）

4 回答数及び内訳

(単位：人)

学校名	合計	内訳①（設問1）		内訳②（設問2）					内訳③（設問4）			
		男	女	20代	30代	40代	50代	60代	管理職	学級担任	担任外	養護事務
第一小学校	27	10	17	5	3	10	9	0	1	17	7	2
第二小学校	22	10	12	0	3	3	12	4	2	14	4	2
松山小学校	9	4	5	1	0	1	6	1	2	6	1	0
上三宮小学校	9	4	5	1	0	2	5	1	2	4	1	2
第三小学校	11	4	7	0	2	3	3	3	2	6	1	2
関柴小学校	10	3	7	1	1	4	4	0	2	6	1	1
熊倉小学校	11	5	6	1	1	3	6	0	2	6	1	2
豊川小学校	11	5	6	1	1	3	6	0	2	7	0	2
慶徳小学校	9	2	7	0	0	2	7	0	2	5	0	2
熱塩小学校	10	3	7	0	0	3	5	2	2	5	1	2
加納小学校	10	5	5	1	2	2	4	1	2	6	0	2
堂島小学校	11	5	6	2	1	2	6	0	2	6	1	2
塩川小学校	24	11	13	3	0	4	15	2	2	16	3	3
姥堂小学校	9	3	6	1	1	3	3	1	2	4	1	2
駒形小学校	12	4	8	1	0	2	9	0	2	7	1	2
山都小学校	13	3	10	3	1	2	5	2	2	7	2	2
高郷小学校	9	6	3	1	1	4	2	1	2	4	1	2
第一中学校	22	15	7	1	4	4	11	2	2	10	8	2
第二中学校	22	13	9	2	2	5	11	2	1	12	7	2
第三中学校	13	8	5	0	2	3	7	1	0	7	5	1
会北中学校	10	4	6	0	2	4	4	0	2	3	3	2
塩川中学校	14	8	6	1	0	4	8	1	2	6	4	2
山都中学校	10	5	5	0	2	1	5	2	2	3	3	2
高郷中学校	12	5	7	1	2	1	8	0	2	4	3	3
合計	320	145	175	27	31	75	161	26	44	171	59	46

(回収率 89.3%)

5 アンケート集計にあたって

学校規模の分類は、学校教育法施行規則等に基づき、学級数により標準規模、小規模、過小規模等に区分されており、この分類にあてはめると、市内の小中学校は下記のとおりとなります。

分類	過小規模	小規模	標準規模
小学校 学級数	5学級以下	6学級以上 11学級以下	12学級以上 18学級以下
中学校 学級数	2学級以下	3学級以上 11学級以下	
小学校	上三宮小学校 慶徳小学校 熱塩小学校 加納小学校 姥堂小学校 高郷小学校	松山小学校 第三小学校 関柴小学校 熊倉小学校 豊川小学校 堂島小学校 駒形小学校 山都小学校	第一小学校 第二小学校 塩川小学校
中学校		第一中学校 第二中学校 第三中学校 会北中学校 塩川中学校 山都中学校 高郷中学校	

今回のアンケート結果は、設問によって、全体集計及び過小規模、小規模、標準規模の学校規模の分類ごとに示すこととしました。

6 単純集計の結果

アンケートの単純集計の結果は次のとおりです。

勤務する学校規模から教育上の課題を感じるかどうかについては、64%の教職員が何らかの課題を感じています。なお、詳細な分析については、今後お示しいたします。

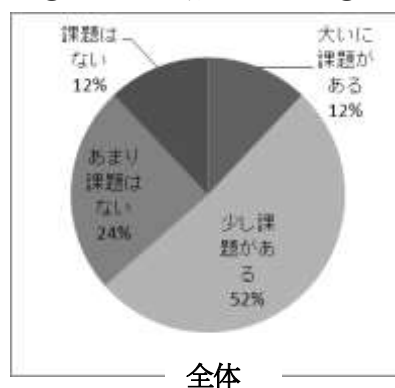
- * 設問1、2、4については P1の「4 回答数及び内訳」の表において、内訳①～③として記載しています。
- * 設問3：現在勤務している学校の児童生徒数、設問5：学級担任を担当している教職員の学年の学級数については省略します。

設問6 あなたの勤務する学校規模（学級の人数、学年の学級数、学年全体の児童生徒数等）から、現在の教育上の課題についてどう感じていますか。あてはまる番号を口（ ）に記入してください。また、その理由をお答えください。

- ① 大いに課題がある ② 少し課題がある ③ あまり課題はない ④ 課題はない

(単位：人)

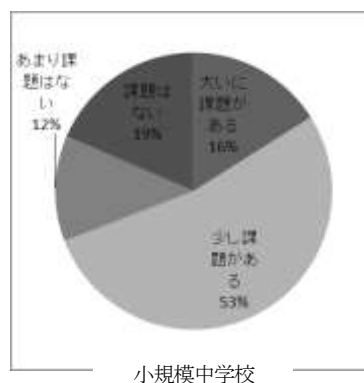
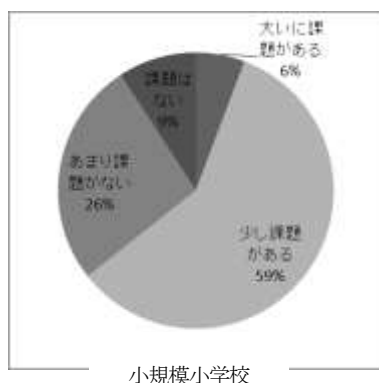
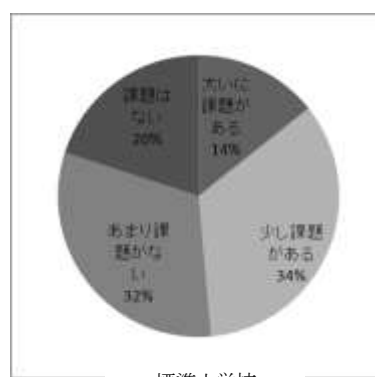
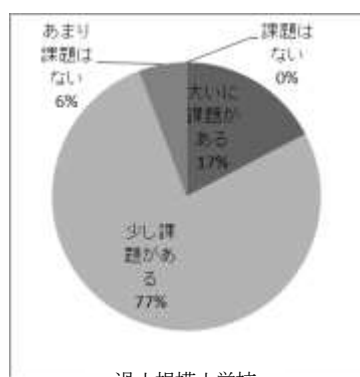
大いに課題がある	37
少し課題がある	158
あまり課題はない	75
課題はない	37



過小規模小学校、小規模小学校、標準規模小学校、小規模中学校別に示すと以下のとおり。

(単位：人)

設問	過小規模小学校	小規模小学校	標準規模小学校	小規模中学校
大いに課題がある	9	5	10	13
少し課題がある	40	51	24	43
あまり課題はない	3	23	22	10
課題はない	0	8	14	15



理由（自由記述）

（単位：人）

分類	過小規模小学校	小規模小学校	標準規模小学校	小規模中学校
主な理由	<p><課題あり></p> <p>人間関係の固定化・序列化がみられる。(11)</p> <p>複式学級の授業準備が大変である。(8)</p> <p>多様な考えの交流が出にくい(7)</p> <p>集団行動や団体競技の体験が不十分(6)</p>	<p><課題あり></p> <p>人間関係の固定化・序列化がみられる。(26)</p> <p>多様な考えの交流が出にくい(5)</p> <p><課題なし></p> <p>少人数で関わりが持てる、適正な人数(10)</p>	<p><課題あり></p> <p>学級の児童数が多く、きめ細やかな指導がしにくい。(16)</p> <p><課題なし></p> <p>話し合いが成立しやすい(1)</p>	<p><課題あり></p> <p>人間関係の固定化・序列化がみられる。(13)</p> <p>技能教科の教員がいないため、免外で対応し、時数増となっている。(9)</p> <p><課題なし></p> <p>少人数ならではの目の行き届いた指導ができている。(4)</p> <p>少人数教育のため、授業も学級経営もやりやすい(3)</p>

設問7 あなたの勤務する学校規模（学級の人数、学年の学級数、学年全体の児童生徒数等）から、将来的に課題になると思われることについて、お答えください。

回答（自由記述）

（単位：人）

分類	過小規模小学校	小規模小学校	標準規模小学校	小規模中学校
主な理由	<p>児童減少により教職員も減り、多忙化が予想される。(19)</p> <p>教員が少なくなると、出張の際、児童の指導体制に苦慮する。(5)</p>	<p>児童減少により教職員も減り、多忙化が予想される。(22)</p> <p>複式学級となり、支障が出る。(10)</p>	<p>児童減少により教職員も減り、多忙化が予想される。(5)</p>	<p>生徒減少により教職員も減り、多忙化が予想される。(34)</p> <p>部活動の設置数が少なくなる(9)</p> <p>部活動の選択が広がらない。(6)</p> <p>免外教員に頼ることになる(2)</p>

設問8 現在、教育委員会では、「指導の具体的方策」として、下表に示す「具体的に取り組む事項」について小中学校が取り組むこととしています。（平成30年度喜多方市の学校教育P 2, 3参照）

あなたの勤務する学校規模（学級の数、学年の学級数、学年全体の児童生徒数等）において、「具体的に取り組む事項」を実践するうえで、推進上、学校規模で感じる課題の有無についてお答えください。（どちらかに○をつけてください）

【有、無と回答した人数】

(単位：人)

重点内容	具体的に取り組む事項	回答	過小規模	小規模	標準規模	小規模	合計	
			小学校	小学校	小学校	中学校		
自己啓発力の育成	正しい児童生徒理解（共感的理解と客観的理解） ・ 日常的な触れ合いの場と機会の設定 ・ 教育相談やアンケートの計画的実施	有	1	6	21	15	43	
		無	50	78	47	85	260	
	日常的な触れ合いによる言葉かけ ・ 1日1人1回は、承認や称賛するなどの言葉かけの場の設定	有	2	4	20	16	42	
		無	49	80	51	83	263	
	自己決定ができる場の充実 ・ 調べる、考える、書く場の設定	有	2	3	10	10	25	
		無	48	80	59	90	277	
	自己存在感が実感できる教育活動 ・ 発表する場や集団の一員として役割を担う場の設定	有	8	5	9	13	35	
		無	43	79	61	87	270	
	共感的人間関係を育む教育活動 ・ ペア学習や相互評価等を取り入れる等、お互いのよさを認め合う場の設定	有	15	11	5	10	41	
		無	35	73	63	89	260	
	「なかたたくタイム」の実践 小学校のみ ・ 生徒を敬称（「～さん」）付けで呼ぶ 中学校のみ	有	2	6	4	6	18	
		無	45	77	62	83	267	
	学ぶ力の基となる基礎的な資質・能力の育成	教材との出合わせ方を工夫し、発達段階や興味関心、知的好奇心、ものの見方・考え方、既習事項や生活経験などを大切に学習活動の充実 ・ 具体物の提示 ・ 既習事項の振り返り ・ 教師による実演 ・ 子どもとの対話の重視	有	4	7	12	13	36
			無	42	77	57	85	261

学ぶ力の 基となる 基礎的な 資質・ 能力の育 成	知識・技能を活用する学習活動や比較・検討等、考える場の工夫や設定	有	28	30	14	26	98
	・ アクティブ・ラーニングの実践 ・ 既習事項や経験の活用 ・ グループディスカッション等の討論や話し合い活動の充実 ・ 習熟度別学習やコース別学習等の個に応じた指導方法の工夫	無	20	54	53	72	199

重点 内容	具体的に取り組む事項	回 答	過小規模 小学校	小規模 小学校	標準規模 小学校	小規模 中学校	合計
勤労観、 職業観及 び職能の 基本的資 質・能力 の育成	自己理解・自己管理能力育成 小：集団の一員であることを理解し、分担・協力して行動する活動の展開	有	4	9	6	11	30
	中：自己の責任や役割について理解し、行動する活動の展開	無	44	75	61	88	268
質・能力 の育成	キャリアプランニング能力育成 小：将来の夢や希望、憧れをもつようにする学級活動の展開	有	6	6	8	10	30
	中：自己の進路を主体的に考え、進路選択の計画を立てる活動の展開	無	42	78	59	89	268
共助、協 働の態度 及びコミ ュニケー ション能 力の育成	自己効力感を高める「なかたくタイム」の実践	有	3	4	4	5	16
	無	無	45	79	62	82	268
力 の育成	実態（hyperQ-U等）に応じたソーシャルスキルトレーニング（SST）や構成的グループエンカウンター（SGE）等の実践	有	9	13	9	13	44
	無	無	39	71	58	84	252
力 の育成	リーダーチャート等を活用した学級力の充実	有	6	8	7	13	34
	無	無	42	76	60	83	261

設問9 あなたが考える教育上望ましい学校の規模はどの程度だと思われるか、あてはまる番号を□に記入してください。(小学校の方は小学校で、中学校の方は中学校でお考えください。)

(単位:人)

小問	望ましい人数	過小規模	小規模	標準規模	小学校	小規模	中学校
		小学校	小学校	小学校	合計	中学校	合計
(1) 学級の 人数	①10人以下	0	0	0	0	0	0
	②11人～15人	5	4	3	12	7	7
	③16人～20人	24	38	24	86	16	16
	④21人～25人	25	34	37	96	36	35
	⑤26～30人	2	12	8	22	38	38
	⑥31人～35人	0	0	0	0	5	5
	⑦36人～40人	0	0	0	0	0	0
(2) 学年の 学級数	①1学級(複式学級も含む)	5	11	0	16	1	1
	②2学級	37	56	34	127	15	15
	③3学級	13	20	33	66	38	38
	④4学級	0	1	3	4	43	43
	⑤5学級以上	1	0	2	3	5	5

(3) 学校全体の児童生徒数	①301人以上	9	23	39	71	25	25
	②210～300人以下	24	38	31	93	54	54
	③101～200人以下	16	26	2	44	18	18
	④50～100人以下	7	1	0	8	3	3
	⑤1～50人以下	0	0	0	0	1	1

設問10 設問9の理由は、設問8で示した「具体的に取り組む事項」のどの項目を重視しての考えですか、あてはまるものがあれば、○をつけてください。（複数回答可）

【教職員が特に重視した項目】(複数回答)

(単位：人)

重点内容	具体的に取り組む事項	過小規模	小規模	標準規模	小規模
		小学校	小学校	小学校	中学校
自己啓発力の育成	正しい児童生徒理解（共感的理解と客観的理解） ・日常的な触れ合いの場と機会の設定 ・教育相談やアンケートの計画的実施	15	35	42	30
	日常的な触れ合いによる言葉かけ ・1日1人1回は、承認や称賛するなどの言葉かけの場の設定	13	27	37	35
	自己決定ができる場の充実 ・調べる、考える、書く場の設定	11	18	19	27
	自己存在感が実感できる教育活動 ・発表する場や集団の一員として役割を担う場の設定	21	39	31	53
	共感的人間関係を育む教育活動 ・ペア学習や相互評価等を取り入れる等、お互いのよさを認め合う場の設定	26	49	37	48
	「なかたくタイム」の実践 小学校のみ ・生徒を敬称（「～さん」）付けて呼ぶ 中学校のみ	7	13	11	7

学ぶ力の 基となる 基礎的な 資質・ 能力の育 成	教材との出会わせ方を工夫し、発達段階や興味関心、知的好奇心、 ものの見方・考え方、既習事項や生活経験などを大切に学習活 動の充実	8	27	28	31
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物の提示 ・ 既習事項の振り返り ・ 教師による実演 ・ 子どもとの対話の重視 				
学ぶ力の 基となる 基礎的な 資質・ 能力の育 成	知識・技能を活用する学習活動や比較・検討等、考える場の工夫や 設定	28	44	40	56
	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクティブ・ラーニングの実践 ・ 既習事項や経験の活用 ・ グループディスカッション等の討論や話し合い活動の充実 ・ 習熟度別学習やコース別学習等の個に応じた指導方法の工夫 				
勤労観、職 業観及び 職能の基 本的資 質・能力の 育成	自己理解・自己管理能力育成 小：集団の一員であることを理解し、分担・協力して行動する活動 の展開 中：自己の責任や役割について理解し、行動する活動の展開	21	49	42	55
	キャリアプランニング能力育成 小：将来の夢や希望、憧れをもつようにする学級活動の展開 中：自己の進路を主体的に考え、進路選択の計画を立てる活動の展 開	12	17	24	28
共助、協働 の態度及 びコミュ ニケーシ ョン能力 の育成	自己効力感を高める「なかたたくタイム」の実践	12	28	21	17
	実態（hyperQ-U等）に応じたソーシャルスキルトレーニング （SST）や構成的グループエンカウンター（SGE）等の実践	14	30	28	32
	レーダーチャート等を活用した学級力の充実	12	22	16	13

設問11 あなたの学校の配置状況（市街地からの距離、小中学校間の距離、学区内における学校所在地、隣接校との距離等）から、現在の教育上の課題又は将来的に課題となってくると思われることについてお答えください。（自由記述）【主な意見を学校規模の分類ごとに記載】

過小規模小学校

- ・ 学校が学区全体から判断するとはずれにあり、地域間で登校に大きな差ができる。
- ・ バス時間の制約があり、日課表を変えにくい。・ 集団登校時一人になってしまい、防犯上不安。
- ・ 人数が減り、集団登校もできない地区がでてくる。
- ・ 現在、全校児童の80%以上がスクールバスでの通学を行っており、遠い子では40分くらい通学に時間を要している。下校時刻がスクールバスによって制限されており放課後指導ができない。

小規模小学校

- ・ 登校時間。バス通などの時間調整と児童管理。
- ・ スクールバスやデマンドバス登校になることで児童の肥満化が心配される。
- ・ 遠方の児童は7時前に家を出て登校。・ 学区は広いと通学時間がかかる。
- ・ 全校生がバス通学になってしまうと日課表等運営が難しい。

標準規模小学校

- ・ 学区が広く、帰りが1人になってしまう子が多い。
- ・ 地域ごとの人数のばらつきが大きい。・ 登校時間 起床時間の差。
- ・ 今以上に学区が広がれば地域間の差は生じる。・ 集団登校が難しい。

小規模中学校

- ・ 自転車で通学せず、体力の低下。・ 早朝集合や遅くの解散では、親の送迎協力が不可欠になる。
- ・ 登下校の時間の差、保護者送迎の負担。・ 学校がはずれにあり地域間で差が出る。
- ・ 地域間での登校時間に差がでてくる。・ 一人のためにバスを出すことになる可能性がある。
- ・ 学校が遠い地区もあり、登下校や休日の部活に負担。
- ・ 学区が広いのでバス等の対応を考えて町の中央部に設置すべき。
- ・ 自転車の生徒は、冬季においては、親の負担が大きい。

設問12 あなたが考える望ましい学校の配置の在り方について（市街地からの距離、小中学校間の距離、学区内における学校所在地、隣接校との距離等）あなたの考えをお答えください。（自由記述）

【主な意見を学校規模の分類ごとに記載】

過小規模小学校

- ・ コミュニティー構想を進めるのであれば、小中が同一敷地又は隣接がよい。（西会津町のように）
- ・ 小中学校は近い方がよい。
- ・ 登校時間は徒歩・バス共に 20 分以内で、小中の距離は近いほど良い。
- ・ 中学校の生徒数も考慮して配置すべき。 ・ 一中学校区に一小学校が良い。

小規模小学校

- ・ お互いの学校同士が交流できる距離がよい。
- ・ 小中連携を進めるうえで、小中学校は近い方がよい。
- ・ 人間関係づくりの点から複数小学校から中学校へ。
- ・ 学区内のほぼ中央に学校があり、通学時間に大きな差がでないような配置がよい。
- ・ 可能であれば同じ敷地に、義務教育学校はどうか。

標準規模小学校

- ・ 小中連携のため小中学校の距離は近い方がよい。 ・ 幼小中高の連携。
- ・ 小中一貫校 ・ 小学校区は地域との繋がりが強いので、現行の学区を守るべき。

小規模中学校

- ・ 全員バス通学は体力向上面でよくない。 ・ 冬期間のバスの充実が必要。
- ・ 登下校に負担がかかりすぎるのは問題。
- ・ 中学校ももう少し広げた範囲での学区の見直しを。
- ・ 学区の広さが課題になると思われる。 ・ 残したいが、複式ならば隣接校へ。
- ・ もうしばらく現状で良い。小中一貫でよい。 ・ 給食の配送ができる場所で。
- ・ 学区が広すぎると安全面で課題がある。
- ・ 学区の中心に中学校があればよい。 ・ 幼小中一貫教育が理想。
- ・ 各地域の特色を守る維持するのが大切。

設問13 7月25日(水)～8月30日(木)にかけて、適正規模適正配置に関する保護者・地域意見交換会を市内各所で開催しました。その結果、様々な意見が出され、別添「保護者・地域意見交換会結果報告書」に結果をまとめております。

保護者・地域意見交換会において、多くの意見が出された次の5項目について、あなたはどのように考えるか、あなたの考えをお答えください。なお、別添「保護者・地域意見交換会結果報告書」を参考にお答えいただきますようお願いいたします。(自由記述)

【保護者・地域意見交換会結果報告書の意見についての教職員の感想から主な意見を記載】

(1) 地域と学校の関わり方について

- ・ 学校がある事で地域が活性化。学校教育も地域の力で成立している。
- ・ 地域との関わりはあるにせよ学校は未だ閉ざされた空間のイメージがある。開放された学校を目指すべきである。
- ・ 仮に学校が無くなっても今までの地域行事を実施する方策はあると思う。
- ・ 地域にお願いできることはお願いして学校を支援してもらおう。
- ・ バランスよく。部活などは無くして地域で関わってもらおう。
- ・ 学校の取組に地域の方がもっと協力してもいいと思う。
- ・ 「おらが学校」よりも学校現場、子どもを優先に考えていただきたい。
- ・ 今後、ますます地域と学校の連携・協働が大切になってくると思われる。
- ・ 「地域に開かれた」というが、実際のところ十分とはいえない。学校が地域に対してできることを具体化していく。
- ・ どんな規模であっても、学校側が積極的に働きかければ、地域と協力して教育活動に取り組むことができる。
- ・ 地域あつての学校、地域との関わりなしには学校教育は成り立たない。
- ・ 地域より今の子どもを考えた方がよい。
- ・ 地域と学校で協力して子どもを育てることが大切である。
- ・ 小規模の方が地域と学校の関わりがある。大規模校もそのよさを取り入れてほしい。
- ・ 地域や学校(特に小学校)と連携していくことは大切だが、どこまでもいつまでも続けることは難しいと思う。(理由は少子化、高齢化、人口減少等)地域も学校も相互にできること、見直すことを再確認していくことが必要になってくると思う。
- ・ 地域から学校がなくなるのはさみしさがあるので、行政区の子ども会や育成会などの活動を活発にし、地域とのコミュニティを大切にしていけるべきである。
- ・ 地域があつての学校なので、地域の方も集えるような場であってほしい。

- ・ 第一に考えるべきだが考えすぎると統合が難しくなる。
- ・ 学校を核として地域住民も学びの場となっているが、少子化によって学校の配置等は再検討の必要があると思う。
- ・ 学校の活動に地域の方も参加し、地域の活動にも学校が参加する。
- ・ 地域社会とともに子どもを育てる視点が大切である。
- ・ 地域の行事に生徒を参加させたい。

(2) 部活動の在り方について

- ・ 他校の部活に参加するなど連合とか考えても良いのではないか。児童生徒数が減り、やりたい部活が無いなら、他校との交流もありなのではないかと思う。
- ・ 将来的には地域の指導者による団体作りが必要である。
- ・ 外部指導者やボランティアの協力が必要である。
- ・ ある程度の人数になるようにした方がよい。
- ・ 学校規模に応じた部活の再編が必要である。
- ・ 部活動の制限もでてくる中で、生徒や保護者の要望に沿うものを設置できるようにしていくべきである。生涯スポーツにつながる見通しをもった進め方をしていくべきである。
- ・ 学校や教師の都合ではなく、子どもたちの思いを実現できる部活動ができれば良い。
- ・ できる限り多様な部活動の中から、生徒が選択できる環境がベストである。
- ・ 人数が少ないと集団スポーツを経験ができない。
- ・ 部活の多様性が乏しい。
- ・ 生徒の選択肢が増えるとよい。
- ・ 小学生のうちから中学校の部活動に参加するのは、ありえないと思う。小学校には小学校の活動、身体の発達段階がある。
- ・ 部活動の選択を制限させるのも問題だが、反面、スクールバス等のため部活の時間が制限されることも考えられる。
- ・ 部活の絞り込みが必要である。
- ・ 文化部が多いのでは人数が多くても意味がない。
- ・ どんな状況でも最後は、その人の姿勢である。
- ・ 部活は少ないが、出場は恵まれている。

(3) 通学距離や手段について

- ・ 徒歩通学が基本だが遠距離の場合はスクールバスも必要である。

- ・ 徒歩で通えるほうが良い。
- ・ 距離の差が大きく、朝の集中度合いにも差がでる。家庭事情によるが、自転車・車での送迎を増やしてもいいのではないかと思う。
- ・ 通学時間の長い子は大変である。しかし徒歩かバスになると体力面でぐっと下がる。
- ・ バス通学にするとしてもバス停を数か所にし、歩く距離も確保するべきである。
- ・ 教育活動を圧迫するような通学時間は避けたい。
- ・ 子どもの安全を最優先に考えた手段が必要である。スクールバス→校地内のターミナル等の整備・確保が必要だと思う。
- ・ バス通学でも負担がある家庭には配慮が必要である。
- ・ デマンドバスの活用を図っていくべきである。
- ・ 小学校においてはバスでの通学時間は30分程度が限界だと感じる。(トイレ等のことも考えると)また1時間となると朝家を7時前に出ることになり、また下校も16:00に学校を出ても17:00に家に着くことになり、冬期間など暗い中での下校になってしまう。

(4) 学区の考え方について

- ・ 二中と三中に別れない学区が好ましい。
- ・ 行政区と学区が異なるところは、検討しても良いと思う。
- ・ 学区改変は困難。数年かけて実施していくことが望ましい。よって、学区改変というよりは、小学校の統廃合が先では…と考える。
- ・ (5)の③について… 塩川小の児童の一部を振り分けてはどうか、という意見についてもっと具体的に知りたい。保護者や今後入学予定の児童を含め、衝撃的な意見だと思う。もし、この案を実施するのであれば、保護者や児童は困惑するのではと心配である。また、「児童の一部を～振り分けてはどうか」の表現について、違和感を感じた。
- ・ 会北と上三宮の統合もありかと。

(5) 幼・小・中の関わり方や連携について

- ・ 一貫にするのもよいが、新しい環境で学ぶことも必要である。
- ・ 幼小中一貫教育も選択の1つである。
- ・ 山間部は小中一貫もよい。
- ・ 小中一貫校、義務教育学校の設置を考えてみてはどうかと思う。
- ・ 高郷地区であれば、幼小中一貫を推進が可能である。
- ・ 幼小中一貫ならば給食センターも見直すべきである。